

主 題：こんなにもあなたは愛されています

聖書箇所：ヨハネの手紙第一 4章9－10節

今、世の中はどこに行ってもバレンタインということで騒いでいます。バレンタインデーとはバレンタインという一人の人のことを記念した日であると言われています。3世紀頃に殉教した一人の信仰者でした。いろいろな説がありますが、そのことをここで話すつもりはありません。しかし、彼はイエス・キリストを愛する者として捕らえられた後、ローマによってその宗教に改宗するように、さもなければいのちを奪うということで選択があったとき、彼は信仰を捨てなかった、そのような人物であったと、それにちなんでバレンタインデーというわけですが、何となく私たちはさびしさを覚えます。というのは「愛」ということばが頻繁に使われているのですが、どれだけの人が「愛」の本当の意味を知っているのかどうかです。聖書は私たちに本当の愛とはどういうものなのかを教えてください。本当の愛とはその愛を受け入れる人に、永遠のいのちを与えてくれます。もう一つ、本当の愛はそれを受け入れる人に、変化をもたらします。新しく生まれ変わります。新しい人となります。そのような変化を本当の愛は受け入れる人のうちに為してくれるのです。

今日私たちは、世の中の人が使う愛について学ぶのではなく、神がくださったこの聖書を通して、神が教えてくださる本当の愛についてみことばを見て行きます。ヨハネの手紙第一4：9－10を見てください。「**神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。：10 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。**」、この9節も10節も原語ではどちらもある前置詞によって始まるのです。ヨハネはこの二つのみことばを通して愛というものがどういうものかを教えようとしたのです。9節では「**神の愛が私たちに示された**」、10節では「**ここに愛がある**」と教えています。ですから、この9－10節は今私たちが見ようとしている本当の愛の定義が記されています。

☆本当の「愛」とは？

1. それを受け入れる人に永遠のいのちを与えるもの 9節

「**神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。**」、なぜ神がそのひとり子、イエス・キリストをこの世に遣わされたのでしょうか？それは、その方によってあなたがいのちを得るためであると言います。いのちを得るためにイエス・キリストが送られたとみことばが言うのです。ということは、例外なくすべての人間はいのちをもっていないということです。ヨハネはそのことを教えるのです。聖書を見たとき、明らかにすべての人間は永遠のいのちをもって生まれてきていないのです。なぜなら、ペテロが使徒の働き3章で宮においてメッセージをしています、14から15節の初めを見ると「**そのうえ、このきよい、正しい方を拒んで、人殺しの男を赦免するように要求し、：15 いのちの君を殺しました。**」とあります。殺されたイエス・キリストはいのちの君だと言うのです。いのちの源であると言います。その方を殺したと言うのです。それが人間が人間のために送られてきた救い主に対して行なったことです。いのちを与えるために来てくださった救い主に対して、あなたなど必要ないと彼を殺したのは人間でした。そして、実はそれはあなた自身の姿なのです。なぜなら、あなたは生まれながらに、あなたを救うために来てくださったイエス・キリストを信じていない、ある時、イエスの話を聞いたとしても、そのイエス・キリストに対して心を開くことがなかった、必要ないとしていた、まさに、このペテロが語ったいのちの君を殺したというのは、ペテロが語った人々がそうであったように、ここにおられるあなたも同じことを繰り返したのです。みことばはこのように教えます。ソロモンは箴言8：36で「**わたしを見失う者は自分自身をそこない、わたしを憎む者はみな、死を愛する。**」と言っています。つまり、神が言われることは、人間はみな私たちが造ってくださった創造主を愛しているのではなく憎んでいる、それが証拠に、私たちはその方が喜ばれることをしようともしていません。その神が喜ばれるような正しいこと、きよいことを私たちは選択して、それをすべての点で行なっているかと言うと、決してそうではない、かえって私たちは自分のやりたいことを選択し、自分の肉の欲するままに生きて来ているのです。だから、神が教えてくださっていること、神が望んでおられること、神が喜ばれること、神が愛されること、そのようなことを一切無視して私たちは好き勝手に生きて来たのです。ゆえに神は言われるのです、あなたはわたしを憎んでいると。私たちがことばでいくら愛すると言っても行ないを見たとき、あなたはわたしを憎む者だと言われるのです。心が痛い。責められます。しかし確かに、私たちがイエス・キリストを信じる前の生き様はそうでした。しかし、そのような私たち

に神はいのちを与えようと、そして、そのためにイエス・キリストを送ってくれたと言うのです。

もう一度、I ヨハネ 4：9 を見てください。「**その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。**」と日本語では長いのですが、ギリシャ語ではただ一つのことばが使われています。「生きる」ということばです。つまり、イエス・キリストが遣わされた理由はあなたが生きるためである、あなたがいのちをもつためであると、そのようにヨハネはここで教えるのです。あなたにとってもっとも大切ないのち、永遠のいのちを与えるために、神はイエス・キリストをこの世に送ってくださったのです。

○イエス・キリストによっていのちを得ることができる理由

(1) 私たちにいのちを与えるという任務をもって生まれてきたから

では、なぜこのイエス・キリストによっていのちが与えられると言い切れるのでしょうか？他にもいろいろな方法があるのではないかと、いろいろな方法が世の中では説かれている、なぜイエス・キリストだけなのか、そのことについてもこのみことばは私たちに教えてくれます。9 節を見て、これが神が選ばれたいのちを与える方法だったのです。「**ひとり子を世に遣わし**」とあります。この「**遣わし**」ということばですが、これは使節として任務をもって送られる、また、使命を負わせて任地に遣わす、またある辞書では、信任状をもってある職務、任務などを履行するために送ると言います。ですから、イエス・キリストが送られてきたのははっきりした目的、ある任務があったのです。私たちは任務をもって生まれてきてはいません。しかし、イエス・キリストの誕生は私たちのようではなかったのです。どのような任務でしょう？あなたにいのちを与えるという任務です。しかも、この 9 節では「**ひとり子を**」とあります。これも大切な意味をもっています。これは「唯一」という意味だけではなく、「無比の」とか「他に類のない」という意味です。つまり、イエスは他の赤ちゃんたちとは違ったのです。特別な働きをもっていたのです。そのことをヨハネがまず教えてくれるのです。あなたを罪から救い出しあなたに一番必要な永遠のいのちを与えるためにイエス・キリストが遣わされた、それが神があなたにいのちを与える方法として取られたことだったのです。

(2) 神があなたを愛してくださっているから

10 節にそのことが記されています。10 節の最後を見てください。「**ここに愛があるのです。**」と日本語ではこのように最後にありますが、原語では一番最初に出て来ます。これが強調されているのです。これが愛だ、ここに愛がある、これこそ本当の愛だと言います。しかも、このように言い切ったのは、この「愛」ということばの最初にヨハネはわざわざ冠詞を付けているのです。というのは、どんな愛でもいいというのではなく、ある特別な「愛」をヨハネは言いたかったからです。神の愛です。そのことをヨハネはここで言わんとするのです。どんな愛だったのか、ここに記されています。二つのことがこの中に出て来ます。(a) 無条件の愛＝「**私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し**」たとあります。私たちの神への態度というものがこの 10 節の初めに書かれています、「**私たちが神を愛したのではなく**」と。この「**愛した**」ということばの時制を見ると完了形が使われています。なぜこのような時制が使われたかという、これが人間の、これがあなたの神に対する態度だからです。あなたは過去において神に対して全く愛を持っていない、そして、それは過去だけでなく今に至るまでずっと同じ状態だということです。まさに、これは先ほど見たように人間の姿そのものです。私たちは過去においても神に対する愛をもたなかったし、現在もそのような愛はもっていないということです。それが私たちだと。それほど神に対して関心もないし、神を愛する気持ちなど毛頭ない、それが私たちだったということです。神に感謝もしない、神を必要とも思わない、神を信じようもしない、ただ私たちは神を憎んでいたと、そのような者であったということです。そういう私たちの姿をここで表わしたヨハネは、後続けます。しかしながら、そういうあなただっただけでも、そういうあなただっただけでも、神はこうだと言います、「**神が私たちを愛し**」と。ここで使われている「**愛し**」ということばは完了形ではなく不定過去という時制が使われています。しかも、不定過去でも創造的な不定過去です。すなわち、時間に関係なく行動全体をちょうどパノラマにして見ているような、そのようなものです。つまり、私たちは神に対して愛を全く示さなかった、でも、神は時間的なある時点ではなく私たちのすべてを見て常に私たちを愛し続けている、それが神なのだということです。違いが分かるでしょうか？人間というのは過去においても今も神を愛していない、私たちクリスチャンはどうでしょう？神が愛してくださっているような愛で神を愛しているかと問われると皆恥ずかしくなります。このような不完全な私たちに関係なく神は変わることをない愛をもってあなたを愛し続けている、それが神だと言うのです。すごいことをヨハネは私たちに教えてくれるのです。(b) 犠牲を伴った愛＝しかも、この神の愛というのは、私たちの行ないなどに関係ない無条件な愛だけでなく、犠牲を伴ったものです。この 10 節の後半に「**御子を遣わされました**」とあります。ここで使われている時制は、このイエス・キリストがこの地上にお生まれになったというのが歴史的事実であることを明らかにしようとして不定過去という時制を使っているのです。ヨハネはこのように時制を使い分けることによって、メッセージを明確にしたのです。神の愛というのが常に変わることを

私たちの想像を絶したものであるということをお教えだけでない、このイエス・キリストというお方、いのちを与えるためにこの世に送られてきたお方は、架空の空想の人物ではなくて、歴史上の人物であり、いのちをもって肉体を持ってこの世にお生まれくださった方であるということ、そのことをここで明らかにしているのです。もちろん、その当時の人々はそれに何の疑いももたなかったのです。なぜなら、イエス・キリストが処刑されたことを知っている人々がまだいたはずですから、今の私たちからすると1900数十年経っているわけですから、本当かしらと思うのですが、その当時の人々はそうではありませんでした。ヨハネはそのことを明確に言うのです。人としてこの世にお生まれくださった救い主、イエス・キリストは命を与えるためという任務をもっていました。この10節でヨハネは「**なだめの供え物**」と目的を記しています。このことばを見たとき、何か怒りを静めるためにささげられたものと思います。確かに、異教徒の人々はこのギリシャ語をそのように理解しました。というのは彼らの中でそのことが行なわれていたのです。何か事が起こるとそれは神が怒っているとして、その神の怒りを静めるためにささげものやいけにえをささげたのです。これは多神教の私たち日本人でもよく分かることです。しかし、ここで使われている「**なだめの供え物**」というのは、そのように怒りを静めるという意味よりも、「満足」という意味をもったことばだということを覚えなければいけないのです。「**なだめの供え物**」と訳されていることばには「満足」という意味があるのです。つまり、神に逆らい神に罪を犯している人間がいったい何をすると神は満足してくれるのでしょうか？罪人の私たちが何をしたら神はよしとして私たちを受け入れてくれるのでしょうか？私たちの罪を赦してくださるのでしょうか？私たちはどんなに善行を積んでも無理です。どんなに心を入れ替えて正しい人間になりますと宣言しても無理です。神が喜んで満足されるようなことは私たちは何一つできないのです。どんなに熱心に奉仕をしようと、どんなに献金をしようと、どんなに熱心に集会に出席しようと、どんなに熱心に祈ろうと、あなたの行ないはすべて神を満足させるものではないのです。全部不完全だから…。でも、一つだけ神を満足させるものがあります。それが人としてこの世に来てくださったイエス・キリストです。その方があなたの身代わりとなって十字架で死んでくださったこと、この十字架こそ神を満足させたのです。私たちが十字架を見上げるとき、私たちは神のご性質をそこにみます。神がきよい方だと分かります、なぜなら、神は罪を放っておかれなからずです。罪を見て見ない振りをするお方ではない、罪を見たら必ずその罪に対して責任を問われるのです。罪を必ずさばかれるきよい正しいお方です。だから、罪を放っておかなかったのです。本来なら、罪を犯した私たちがそのさばきを受けなければいけなかった、罪の当事者だから当然です。神はそのことを警告されていました。罪を犯せばその責任は必ず自分に返ってくることを。しかし、私たちは十字架を見たとき、そこに神のきよさだけでなく神の愛を見るのです。愛なる神はあなたをそこに磔にする代わりに、ご自分の愛するひとり子イエス・キリストを磔にしたのです。ひとり子イエス・キリストがあなたのすべての罪を負って十字架でああなたの身代わりとなって死んでくださった、だから、十字架を見上げるとき「神は愛なり」と言うのです。神はここまで私を愛してくれていると言うのです。イエス・キリストはあなたの身代わりとなって十字架で死ぬためにこの世に来てくださった、これはもう歴史的な事実であり、そして、イエス・キリストはもう十字架で死んでくださった、本来なら、あなたが架からなければならぬ十字架に、イエス・キリストが架かってイエス・キリストがあなたのためにいのちを捨ててくださったのです。だから、十字架は神のきよさ正しさを満足させ、愛なる神を満足させるのです。イエス・キリストだけが神があなたを罪から救い永遠のいのちをあなたに与えるための方法として選ばれた唯一の方法なのです。同時に、イエス・キリストの十字架だけが神を満足させるものだったのです。

神を愛することのない者、神をすべての点で喜ばせることのない者、神を憎んでいた私たち、神に逆らっていた私たち、神よりもサタンを喜ばせることを選択して来た私たちに対して、神はこのような愛をもってあなたを愛していると言われた、そして、このイエス・キリストを受け入れるときに、神は約束通りにすべての罪を完全に赦してくださったのです。皆さん、こんな愛によってあなたは愛されているのです。この愛は神があなたに直接示されたものです。個人的なものです。私たちクリスチャンが十字架を見上げるときに私たちは覚えなければいけない、私は愛されていると。だから、イエスはこう言われたのです。「**…わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです。**」(ヨハネ5:24)。ローマ4:5には「**何の働きもない者が、不敬虔な者を義と認めてくださる方を信じるなら、その信仰が義とみなされるのです。**」とあります。何とすばらしい約束でしょう。何の働きもない者、不敬虔な罪深いあなたを義と認めてくださる、救ってくださる、その方を信じるならその信仰によってあなたは罪赦されて義とされると言うのです。何か特別なことを行なったからではない、何もできない不敬虔な者だった、神に喜ばれることなど何一つできないそんな罪深い私たちに対して、神は救いを備えてくださったのです。そして、この備えられた救いを受け入れることによって、あなたの身代わりとなって十字架で死んでよみがえられたこの救い

主、神が遣わした唯一の救い主イエス・キリストをあなたの救い主と信じて、この方に従って行こうと選択するなら、その信仰によってあなたは救われるのです。イエスだけが私を救ってくれる、神さまどうぞ私を救ってください、私はあなたを私の神としてあなたに従って行きますと、その信仰があなたを救うのです。あなたの特別な働きによるのではない、このイエス・キリストを信じるという信仰によってあなたのすべての罪は完全に永遠に解決されるのです。永遠のいのちをいただくのです。

先ほど見た箴言の中でソロモンはこうに言います。8：35「**なぜなら、わたしを見いだす者は、いのちを見いだし、主から恵みをいただくからだ。**」と。真の神を受け入れることによって、あなたはいのちを見い出すのです。神からの恵みを、祝福をいただくのです。こんなすばらしい救いの道が主イエス・キリストによって備えられました。そして、このようなことをヨハネは教えてくれるのです。それは、この救いは今でもあなたに与えられる、今でもこの救いをいただくチャンスがあると。Ⅰヨハネ4章に戻ってください。9節に「**神はそのひとり子を世に遣わし、**」と言いました。それはいのちを得るためであると今見てきました。ヨハネがここで言わんとしていることは、確かに、イエス・キリストはもう世に遣わされた、そして、イエス・キリストによって、そのイエス・キリストを信じる人々に神はいのちを与えて来られました。その結果は今も継続しているということです。だから、1900数十年前だけではないのです。今の今日この瞬間においても、あなたがその救いを求めるなら救いは与えられるのです。まだその扉は閉ざされていないのです。パウロがⅡコリントの中でこのように言います。「**神は言われます。「わたしは、恵みの時にあなたに答え、救いの日にあなたを助けた。」確かに、今は恵みの時、今は救いの日です。**」(6：2)。今も求める者に神は救いをくださるのです。しかし、私たちが気をつけなければいけないことは、いつまで続くか分からないということです。今日教会に来られた皆さん、神はあなたをここに集めてくださった、神は今日あなたにこのいのちを与えようとしてくださっています、それを受け入れるか、それを拒み続けるのか、それはあなたが決めなければならない選択です。神の約束は、主よ、どうぞ私の罪を赦してください、私はあなたを受け入れます、信じます、その選択をするならその瞬間にこの救いはあなたに与えられます。そのチャンスはまだあるのです。しかし、明日があるとは誰も約束できません。そんなことは断言できません。言えることは、今日神はその救いの機会をあなたにくださったということです。その機会を無駄にしてはならないのです。この救いを無駄にしてはならないのです。救いを逃してはならないのです。しかし、そのためにはあなた自身がそれを選択しなければならないのです。本当の愛はそれを受け入れる者に永遠のいのちを与えるものです。

2. あなたを変えます

Ⅰヨハネ4：11を見てください。「**愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた互いに愛し合うべきです。**」、神の愛の説明を終えたヨハネは、こんなにすごい愛で愛されているあなたには大切な責任があると言います。それは、その神の愛を再現するという責任です。そのような神からいただいた愛をもって生きて行くことです。そのような愛をもって人々に接して行くことです。パウロはエペソ人への手紙5：1で「**ですから、愛されている子どもらしく、神にならう者となりなさい。**」と教えています。そして、2節ではこう言います。「**また、愛のうちに歩みなさい。キリストもあなたがたを愛して、私たちのために、ご自身を神へのささげ物、また供え物とし、香ばしいかおりをおさげになりました。**」と、今ヨハネが言ったことと同じことをパウロはここで言うのです。イエス・キリストの犠牲的な愛をもって、無条件の愛でもって愛されたあなたは、その愛をもって歩み続けて行きなさいと。その愛をあなたの生涯を通して再現して行きなさいと。神の愛を模範として…。ですから、このⅠヨハネ4：7を見ると「**愛する者たち。…**」とあり、11節にもあります。神によって愛されている者たちよ、と言うのです。神によって愛されていることが分かっているなら、その愛をあなたも実践して行きなさいと言います。7節には「**互いに愛し合しましょう。**」とあります。11節にも「**互いに愛し合うべきです。**」と。これらは全部現在形で記されています。というのは、継続して愛し合って行きましょうということです。しかし、このメッセージを聞いても、この命令を聞いても多くの人たちは、それは難し過ぎて私には無理だ、神が愛されたように人を愛することなど私にはできないと言います。しかし、みことばはできると言います。なぜできるのか、それはこのテキストが私たちに教えてくれることです。なぜ、このような神の愛を再現することができるのかというと、それはあなた自身が救われているからです。救われているからそれが可能だと言うのです。7節を見ると「**愛する者たち。私たちは、互いに愛し合しましょう。**」とありますが、そのあと「**愛は神から出ているのです。**」と続きます。つまり、ヨハネが言いたいことは、「愛」という行為の源、それがどこにあるのかを教えているのです。神だと言います。これが神のご性質なのです。ですから、8節の「**…なぜなら神は愛だからです。**」と言うこの「愛」にヨハネは冠詞をつけなかったのです。なぜなら、「愛」というのが神の本質であるから、神ご自身の性質を現わすものだからです。そのためにわざとそのような書き方をしたのです。つまり、ヨハネが言いたいことは、愛と神とは分けることができないもの、愛が神ご自身の本質を現わしたものだと言うのです。その神があなた

のうちにおられ、その神が愛を実践させていってくれるのだと言うのです。だから、愛は神から出ていると言うのです。だから、イエスを信じた人のうちには救われた証拠として、聖霊なる神が内在している、その神が人を愛することを可能にしてくれるのです。

もっと、すごいことを見てみましょう。ヨハネの福音書 17 : 24 「父よ。お願いします。あなたがわたしに下さったものをわたしのいる所にわたしといっしょにおらせてください。」と、皆さんと考えなければいけないことは、「あなたが」、そして「わたし」というのが誰を指しているのかです。初めに「父よ。」と言っているのですから、これはイエスの祈りです。イエスは祈っておられるのです。「わたし」というのはイエスです。「あなた」というのは父なる神です。それを覚えながら続いて見てみましょう。「あなたがわたしを世の始まる前から愛しておられたためにわたしに下さったわたしの栄光を、彼らが見るようになるためです。」と、父なる神が子なるイエス・キリストを愛していると言うのです。もう私たちには分からないことです。三位一体、ひとりの神、しかし、父なる神が子に対して愛を持っているというのです。26節を見てください。「そして、わたしは（イエス・キリスト）彼らに（信じる者たちに）あなたの（父なる神の）御名を知らせました。また、これから知らせます。それは、あなたが（父なる神が）わたしを（イエス・キリストを）愛して下さったその愛が彼ら（信じた者たち）の中にあり、またわたしが彼らの中にいるためです。」と、つまり、三位一体の中である神のその愛が信じたあなたのうちには与えられていると言うのです。これは、私たちの理解を絶する愛のことです。しかし、みことばが教えてくれることは父なる神が子なる神イエス・キリストに対してもっていたその完璧な愛が、イエス・キリストを信じた人のうちに与えられていると言うのです。ヨハネの手紙に戻ってください。だから、クリスチャンの特徴はお互いが愛し合っていくことなのです。7－8節をもう一度見てください。「愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。：8 愛のない者に、神はわかりません。」、7節の後半と8節の初めのこの二つの文は対比されています。というのは、7節には「神を知っています。」とあり、8節には「神はわかりません。」と書かれていますが、この二つは同じギリシャ語なのです。しかも、この「知っています」というのは、知識をもっていたということではなく、その方を信じてということです。そうすると、ヨハネはこのように言っているのです。「愛のある者はみな神から生まれ、神を知っている、信じている、救われている、」、ところが「愛のない者は、神を知っていない、信じていない」と言うのです。この「知る」ということばは、ある状態とか状況に入ることを表わす時制です。つまり、知っていますというのは、ある新しい状態に、新しい状況に入る、つまり、神との新しい関係に入ることを言っているのです。だから、救いのことを言っているのです。ですから、ヨハネが言うことは、愛を実践している人、つまり、継続して愛し続けている人は、神との正しい新しい関係に入った人のこと、しかし、継続して愛し続けていることがない人は、この新しい状況にまだ入っていない人だということです。だから、本当のクリスチャンというのは、この継続する愛によって特徴づけられるのです。それが本当のクリスチャンの証拠なのです。今見て来たように、神のご性質は愛です。その方が私たちのうちにいる、そうすると、その方のご性質が外に出て来るのです。だから、救われている人に「互いに愛し合いなさい」と説明したり、教える必要はないのです。なぜなら、そのように愛の神があなたのうちに働かれるなら、そのように変えて行かれるからです。そのように生きようとするのです。神の愛をもって愛し合っていく、確かに、人間的に言うと不可能なことです。しかし、これが不可能なことではないということがもう皆さんはお分かりになったでしょう？このようなことを神は私たちに教えてくれたのです。あなたのうちには神がおられる、その方が可能にしてくれる、なぜなら、愛は神から来ると。だから、信じているあなたは、互いに愛し合う者、相手が愛してくれなくても愛する者になるのです。それは愛なる神があなたのうちにいてくれるからです。何度も言いますが、私たちは完璧に愛せる者ではありません。そのことが分かってもなかなか人を愛することなどできない弱い者です。しかし、少なくとも神がうちにいる人、つまり、救われている人のうちには神が変化を起こしてくださる、どんな変化か、兄弟姉妹を愛して行こうという変化です。いやなことを言われたけれど、その人に対して怒るのではなくて、かえってその人の上に祝福があるように祈ろうと、目には目を歯に歯を、だから、返しをして、ずっと根にもって、とんでもない、人が自分を愛してくれなくても人を愛そうとするのです。そのような変化を神は私たちのうちにもたらしてくれるのです。ですから、互いに愛し合うことができるというのは、もちろん、あなたが救いをいただいているからであり、同時に、それはあなたの信仰の成長度というものを明らかにするのです。なぜなら、私たちは救われてから成長し続けなければいけないし、成長する者です。そして、私たちの信仰が成長すればするほどキリストご自身のご性質というものを明らかに示すわけです。その中の一つは愛です。ですから、私たちの信仰が成長して行くために、当然、私たちは日々の生活においてすべてのことを聖霊なる神に明け渡して生きなければならないし、みこころに従って正しく生きて行くために、そのことを判断して正しい歩みをしなければいけないし、そして、兄弟姉妹の助けがいます。私たちイエス・キリストを信じる者として兄弟姉妹に対してどのような責任を負ってい

るでしょう？兄弟姉妹が罪を犯したとき、それが間違っているということを明らかにすることです。それが愛です。なぜなら、神の愛は私たちが罪を犯したならそれを懲らしめるからです。ですから、私たちも愛をもってその罪を悔い改めるように勧めるべきです。神がそうされるように。兄弟姉妹の間に怒りや憎しみがあってはならないのです。ソロモンが箴言10：12で言うように「**憎しみは争いをひき起こし、愛はすべてのそむきの罪をおおふ。**」のです。憎しみは争いをひき起こす、神のみわざをなすものではないのです。だから、私たちは兄弟姉妹の間でいろいろな悪口を聞くことがあっても、その人に対してあなたは間違っていると言うべきです。人の悪口を聞いても信仰は成長しないし、栄光を現わさない、それは罪です。私たちはそういうことは止めなければいけません。なぜなら、その罪のためにもキリストは十字架で死んだのです。なぜ、私たちはそのような罪を犯してしまうことを自分に赦してしまうかです。兄弟姉妹たちが悪口を言い合ったり、ののしり合ったり、いかにも善意をもって言っているようでも心の中にその人に対する怒りや憎しみがある、そのような罪はあなたから除かなければいけないのです。神は全部見ておられます。どうするのか、キリストの十字架に戻らなければいけません。あのイエスの十字架を見たとき、なぜこのような者が愛されるのかが分かってきて、そのときに、主よどうぞこの罪人のかしらを赦してください、私を罪から洗いきよめ続けてくださいと願います。現実には、このような思いが心の中に出てくるなら、その瞬間に、神の前にその罪を告白することです。だから、私たちには兄弟姉妹が必要なのです。もし、だれかがそのようなことを言っているならあなたは間違っている言うことも必要だし、祈ってもらうことが必要です。どうぞ、私がこの兄弟をこの姉妹を心から愛することができるように、彼らの上に自分に与えられる以上のすばらしい祝福が与えられるようにと、そういう願い思いをもって祈れる者に変えられるように祈ってくださいと。そのようにして励まし合うのです。イエスの口から人々の悪口、人々のうわさが出来たのでしょうか？私たちはしっかり自分の歩みを考えなければいけません。本当の愛というのは私たちを変えます。あなたは変わって行っていますか？いや、変わって行くことを望んでおられますか？神は変えて行ってくださるのです。このようにして神の栄光を現わすのです。私たちの良い働き、行ないを見て天の父があがめられるようにと、それが私たちの希望です。そのためには、あなたが変わって行くことです。